

家庭等における暴力防止に関する  
アンケート調査

報 告 書

(概要版)

平成23年3月

下 呂 市

# 目 次

I.	調査概要	1
1.	調査概要	1
	(1) 調査目的	1
	(2) 調査方法	1
	(3) 配布・回収状況	1
II.	調査結果	3
1.	調査結果	3
	(1) アンケート調査結果	3
	(2) 自由意見（概要版では省略）	19

## I . 調查概要

# 1. 調査概要

## (1) 調査目的

「下呂市家庭等における暴力防止及び被害者保護に関する基本計画（DV 防止基本計画）」策定に向けた、市民の現状や意向の把握及び周知・啓発のため

## (2) 調査方法

### ア. 調査期間

平成 23 年 2 月 15 日～平成 23 年 2 月 28 日

### イ. 対象事業者

下呂市内に在住の 16 歳～65 歳の方

### ウ. サンプル抽出方法

無作為抽出法

### エ. 配布・回収方法

郵送による配布・回収

## (3) 配布・回収状況

配布数 (件)	2,000
回収数 (件)	873
回収率 (%)	43.7
無効回答数 (件)	1
有効回答数 (件)	872
有効回答率 (%)	99.9

※調査票に記入のないものを無効回答とした。

## II. 調查結果

---

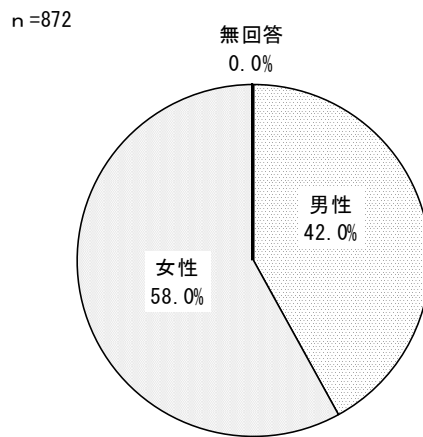
## 2. 調査結果

### (1) アンケート調査結果

#### 性別 (SA)

- 「男性」が42.0%、「女性」が58.0%となっています。

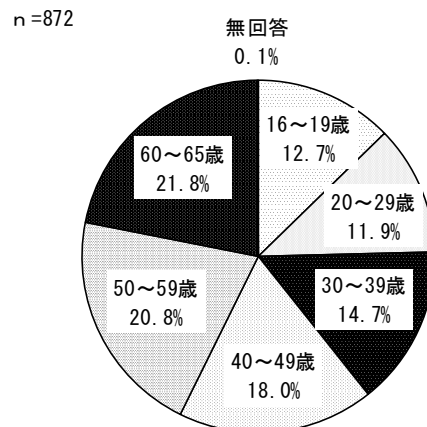
問A. 性別をお答え下さい。



#### 年齢 (SA)

- 「60～65歳」が最も多く21.8%、次いで「50～59歳」が20.8%などとなっています。

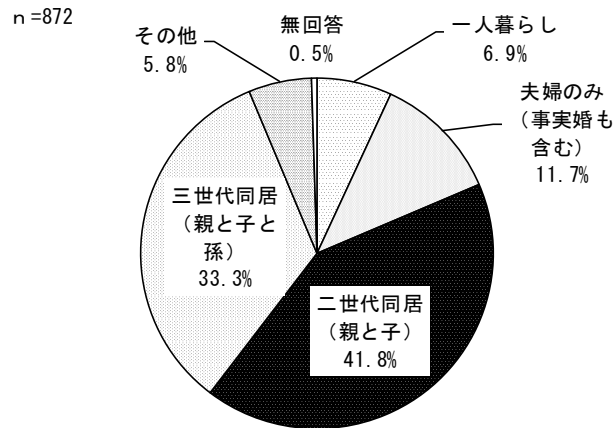
問B. 年齢はおいくつですか。



## 家族構成（SA）

- 「二世代同居（親と子）」が最も多く 41.8%、次いで「三世代同居（親と子と孫）」が 33.3%などとなっています。

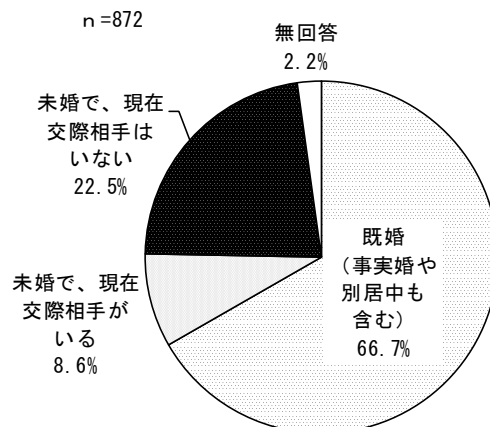
問C. 家族構成は次のうちどれにあたりますか。



## 現在の状況（SA）

- 「既婚（事実婚や別居中も含む）」が最も多く 66.7%、次いで「未婚で、現在交際相手はいない」が 22.5%などとなっています。

問D. 現在の状況は次のうちどれにあたりますか。

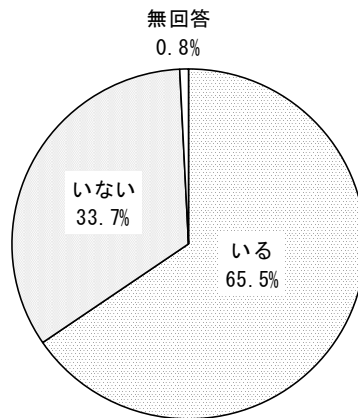


## 子どもの有無（SA）

- 「いる」が65.5%、「いない」が33.7%などとなっています。

問E. お子さんはいらっしゃいますか。

n=872





## 各用語の認知度（SA）

●各用語の認知度を伺ったところ、

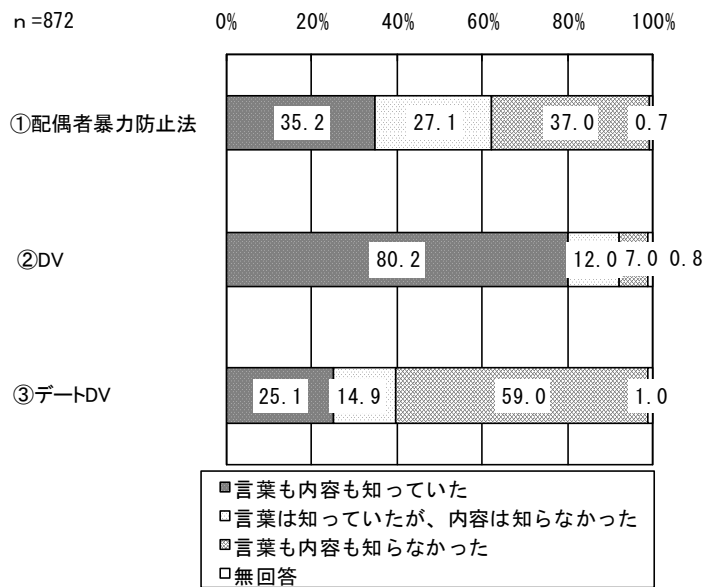
「①配偶者暴力防止法」では、「言葉も内容も知らなかった」が最も多く 37.0%、次いで「言葉も内容も知っていた」が 35.2%などとなっています。

「②DV」では、「言葉も内容も知っていた」が最も多く 80.2%、次いで「言葉も内容も知っていた」が 12.0%などとなっています。

「③デートDV」では、「言葉も内容も知らなかった」が最も多く 59.0%、次いで「言葉も内容も知っていた」が 25.1%などとなっています。

また、「言葉も内容も知っていた」と「言葉は知っていたが、内容は知らなかった」を足した、用語のみの認知度では、「②DV」が最も多く全体の9割以上を占めているのに対し、「③デートDV」では全体の4割にも満たない結果となっています。

問 1. 以下の用語について、その内容を以前から知っていましたか。



●年代別でみると、

「①配偶者暴力防止法」で、「言葉も内容も知っていた」と回答した人は、「60～65歳」で最も多く56.8%、これに対して「16～19歳」で最も少なく14.4%などとなっています。年齢に比例して認知度も増加する傾向がみてとれます。

「②DV」で、「言葉も内容も知っていた」と回答した人は、「16～19歳」で最も多く87.4%、これに対して「60～65歳」で最も少なく67.8%となっています。「20～29歳」を頂点にした山なりの傾向がみてとれます。

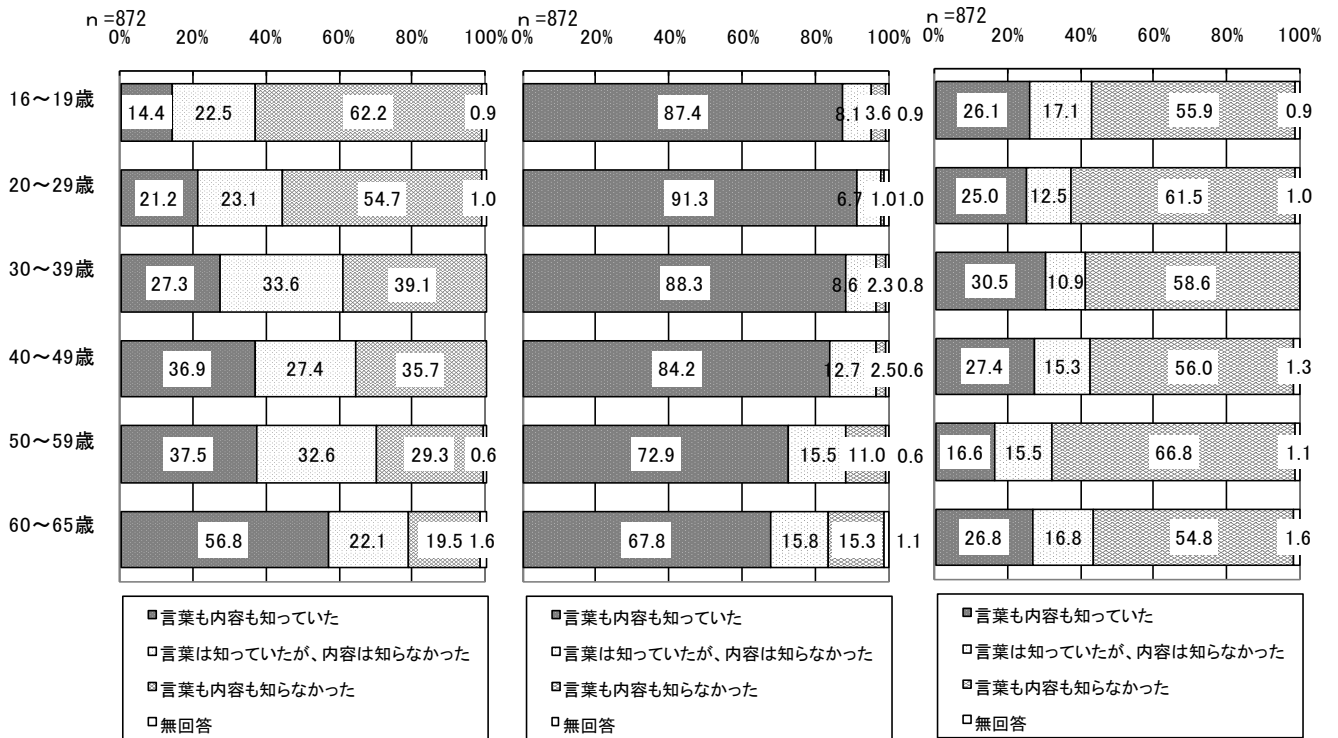
「③デートDV」で「言葉も内容も知っていた」と回答した人は、「30～39歳」で最も多く30.5%、これに対して「50～59歳」で最も少なく16.6%となっています。

年代別

①配偶者暴力防止法

②DV

③デートDV



## 夫婦や交際相手からの暴力の認識（S A）

●夫婦や交際相手からの暴力の認識について伺ったところ、

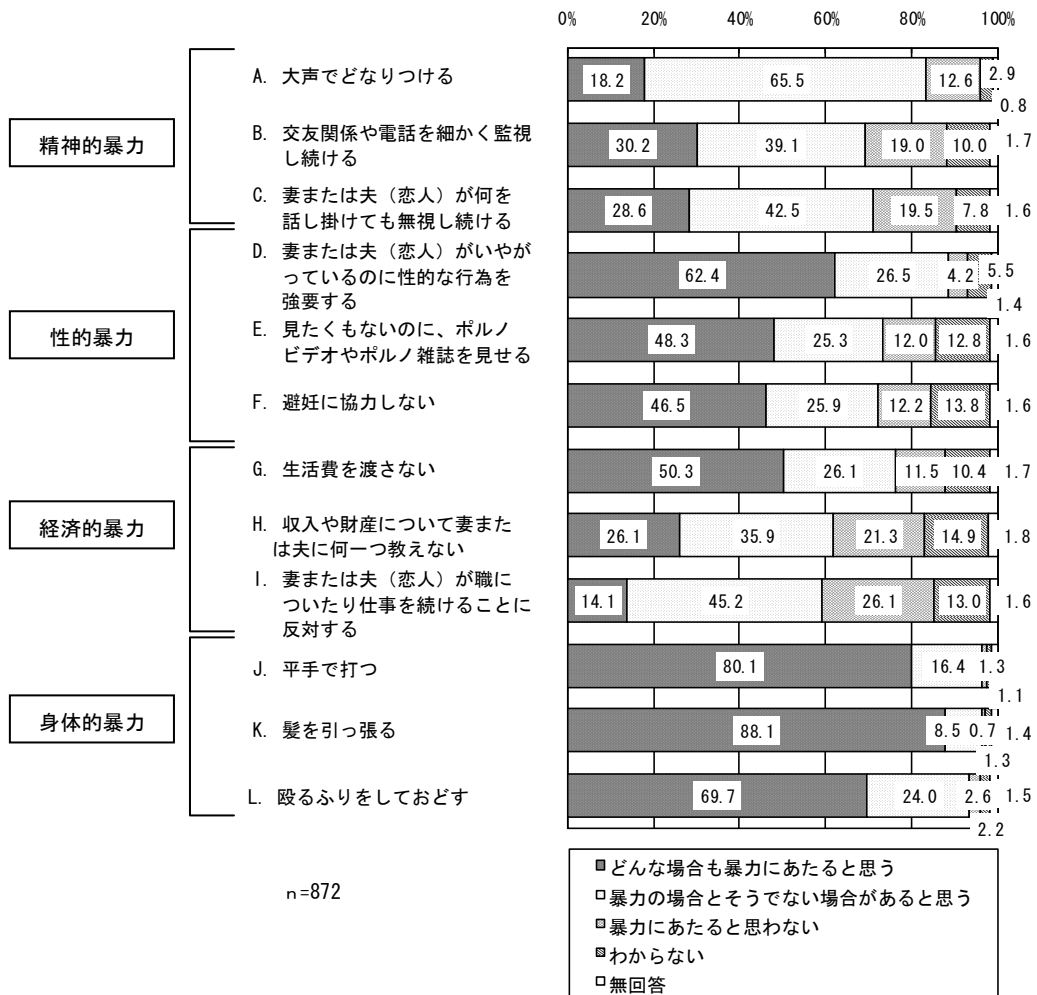
「A. 大声でどなりつける」、「B. 交友関係や電話を細かく監視し続ける」、「C. 妻または夫（恋人）が何を話し掛けても無視し続ける」の「精神的暴力」では、いずれも「どんな場合でも暴力にあたると思う」がそれぞれ 18.2%、30.2%、28.6%などとなっており、暴力としての認識は全体の約 2 割～3 割と低くなっています。

「D. 妻または夫（恋人）がいやがっているのに性的な行為を強要する」、「E. 見たくもないのに、ポルノビデオやポルノ雑誌を見せる」、「F. 避妊に協力しない」の、「性的暴力」では、いずれも「どんな場合でも暴力にあたると思う」が最も多く、それぞれ 62.4%、48.3%、46.5%などとなっており、暴力としての認識は全体の約 4 割～6 割と高くなっています。

「G. 生活費を渡さない」、「H. 収入や財産について妻または夫に何一つ教えない」、「I. 妻または夫（恋人）が職についたり仕事を続けることに反対する」の「経済的暴力」では、どんな場合でも暴力にあたると思う」がそれぞれ 50.3%、26.1%、14.1%などとなっており、暴力としての認識は全体の約 1 割～5 割とばらつきがみられます。

「J. 平手で打つ」、「K. 髪を引っ張る」、「L. 殴るふりをしておどす」の「身体的暴力」では、いずれも「どんな場合でも暴力にあたると思う」が最も多く、それぞれ 80.1%、88.1%、69.7%などとなっており、暴力としての認識は全体の約 7 割～9 割と高くなっています。

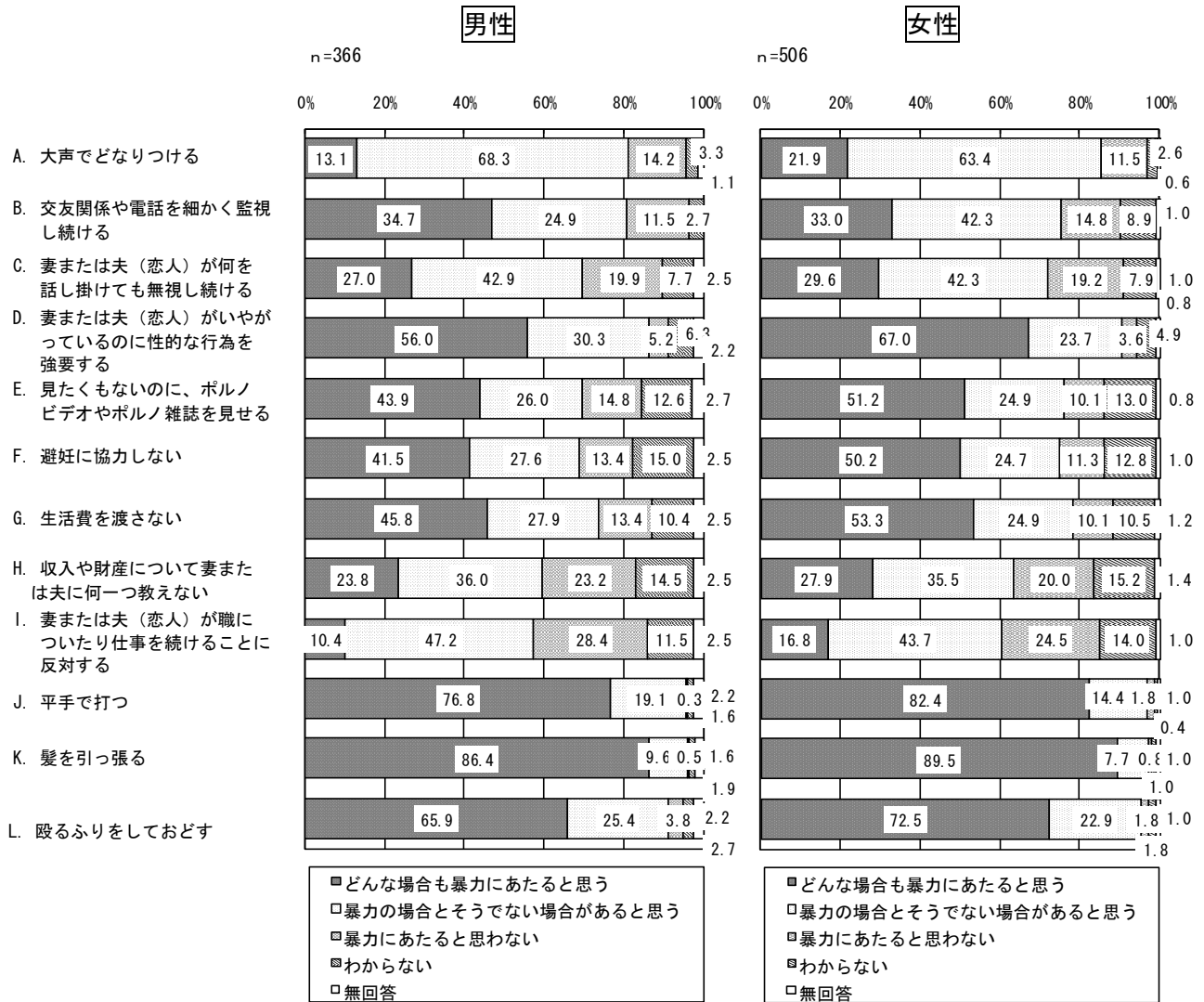
問2. 以下のような行為が夫婦や交際相手との間で行われた場合、それを暴力にあたると思いますか。



●性別でみると、大きな違いは見られませんが、

「B. 交友関係や電話を細かく監視し続ける」で、「暴力の場合とそうでない場合があると思う」と回答した人は、「男性」で24.9%、「女性」で42.3%となっており、「D. 妻または夫（恋人）がいやがっているのに性的な行為を強要する」で、「どんな場合でも暴力にあたると思う」と回答した人は、「男性」で56.0%、「女性」で67.0%となっており、暴力としての認識に1割以上の差があります。

性別



## 過去5年間の被害経験（SA）

●過去5年間の配偶者や交際相手からの被害経験を伺ったところ、

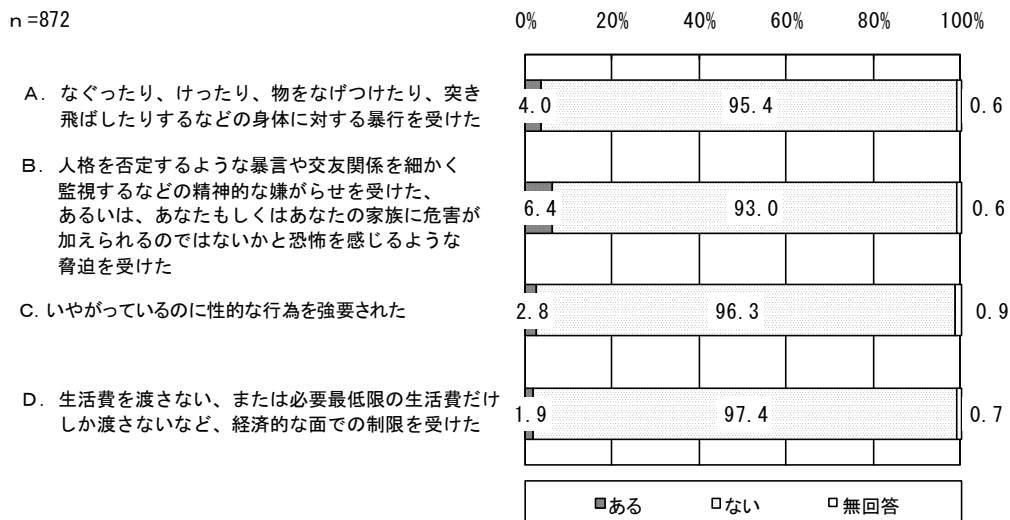
「A. なぐったり、けったり、物をなげついたり、突き飛ばしたりするなどの身体に対する暴行を受けた」では、「ある」が4.0%、「ない」が95.4%などとなっています。

「B. 人格を否定するような暴言や交友関係を細かく監視するなどの精神的な嫌がらせを受けた、あるいは、あなたもしくはあなたの家族に危害が加えられるのではないかと恐怖を感じるような脅迫を受けた」では、「ある」が6.4%、「ない」が93.0%などとなっています。

「C. いやがっているのに性的な行為を強要された」では、「ある」が2.8%、「ない」が96.3%などとなっています。

「D. 生活費を渡さない、または必要最低限の生活費だけしか渡さないなど、経済的な面での制限を受けた」では、「ある」が1.9%、「ない」が97.4%などとなっています。

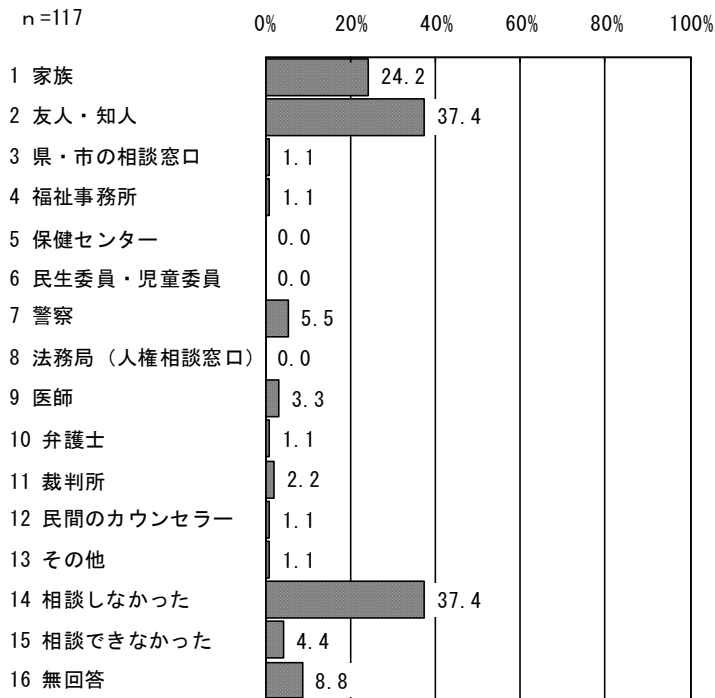
問3-1. あなたは過去5年以内に、配偶者や交際相手から暴力を受けたことがありますか。



## 被害の相談先（MA）

- 問3-1の「A」～「D」のそれぞれの行為について、1つ以上「ある」と回答された方91人に、これまでに配偶者や交際相手から暴力を受けたとき誰に相談したかを伺ったところ、「友人・知人」、「相談しなかった」が最も多く37.4%、次いで「家族」が24.2%などとなっています。

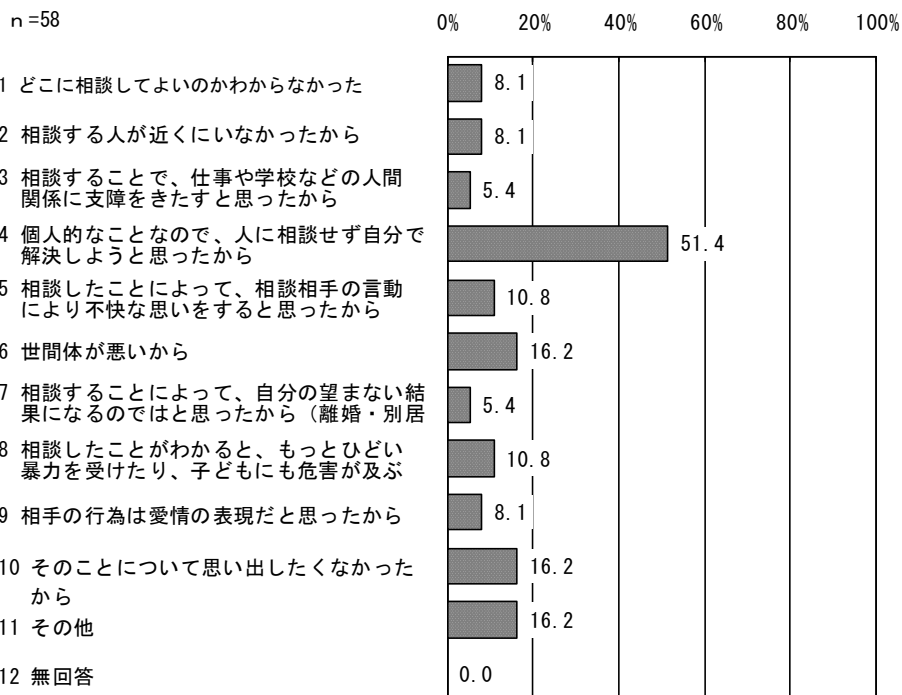
問3-2. これまでに配偶者や交際相手から暴力を受けたとき誰かに相談しましたか。



## 相談しなかった理由（MA）

- 問3-2で「14. 相談しなかった」、「15. 相談できなかった」と回答された方 37 人に、相談しなかった、または相談できなかった理由について伺ったところ、「個人的なことなので、人に相談せず自分で解決しようと思ったから」が最も多く 51.4%、次いで「世間体が悪いから」、「そのことについて思い出したくなかったから」、「その他」が 16.2%などとなっています。

問3-3. 相談しなかった、または相談できなかったのは何故ですか。



- その他の記入内容は以下の通りです。

### その他の記入内容

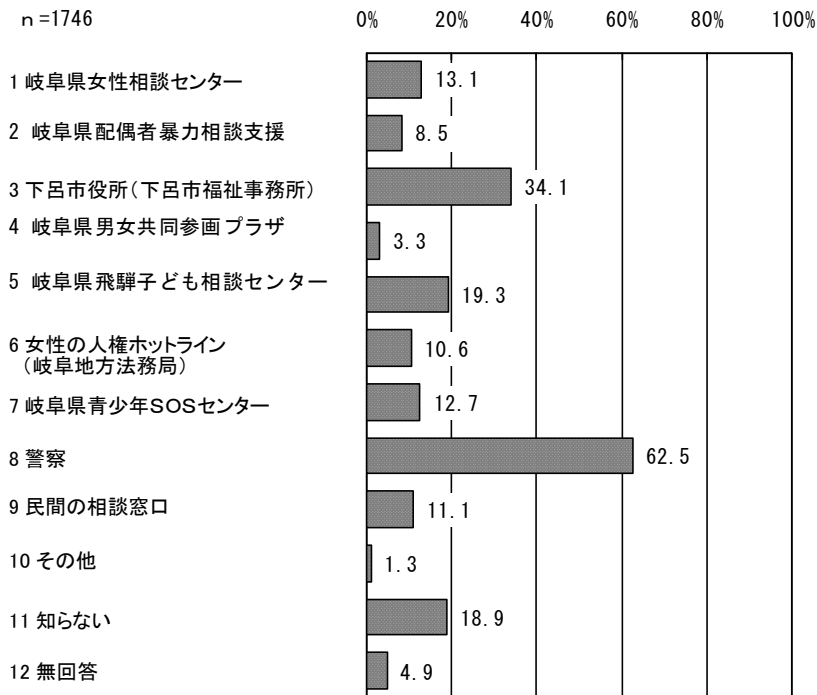
性別	年齢	内容
男性	40～49歳	自分が我慢すればすむし、そのうち相手もわかってくれると思ったから。
男性	50～59歳	相談するような内容でないから。
男性	40～49歳	ケンカの最中だったから。
女性	50～59歳	自分にも悪い面があった。その後は反省している。いわゆる夫婦げんか。
女性	60～65歳	いやだと言ったらそれ以上はしなかった。



## 相談窓口の認知度（MA）

- 配偶者や交際相手からの暴力被害に関する相談窓口の認知度について伺ったところ、「警察」が最も多く 62.5%、次いで「下呂市役所（下呂市福祉事務所）」が 34.1%などとなっています。

問 4. 配偶者や交際相手からの暴力被害に関する相談窓口について、どのようなものをご存知ですか。



- その他の記入内容は以下の通りです。

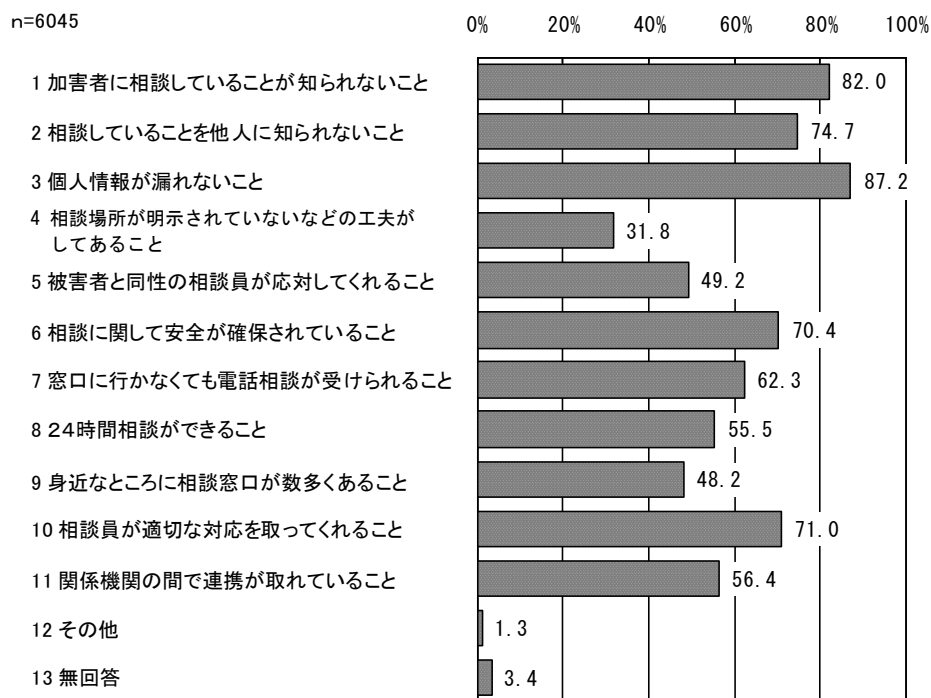
### その他の記入内容

性別	年齢	内容
男性	40～49歳	下呂市社協なんでも相談
男性	60～65歳	民生委員
女性	60～65歳	よろず相談
男性	50～59歳	法務局、人権擁護委員、民生委員等
女性	50～59歳	弁護士
男性	50～59歳	ネットで調べる。

## 相談窓口に必要なこと（MA）

- 配偶者や交際相手からの暴力被害に関する相談窓口に必要なことについて伺ったところ、「個人情報漏れないこと」が最も多く87.2%、次いで、「加害者に相談していることが知られないこと」が82.0%などとなっています。

問5. 暴力を受けた被害者が安心して相談を受けられるためには、相談窓口にはどのようなことが必要だと思いますか。



- その他の記入内容は以下の通りです。

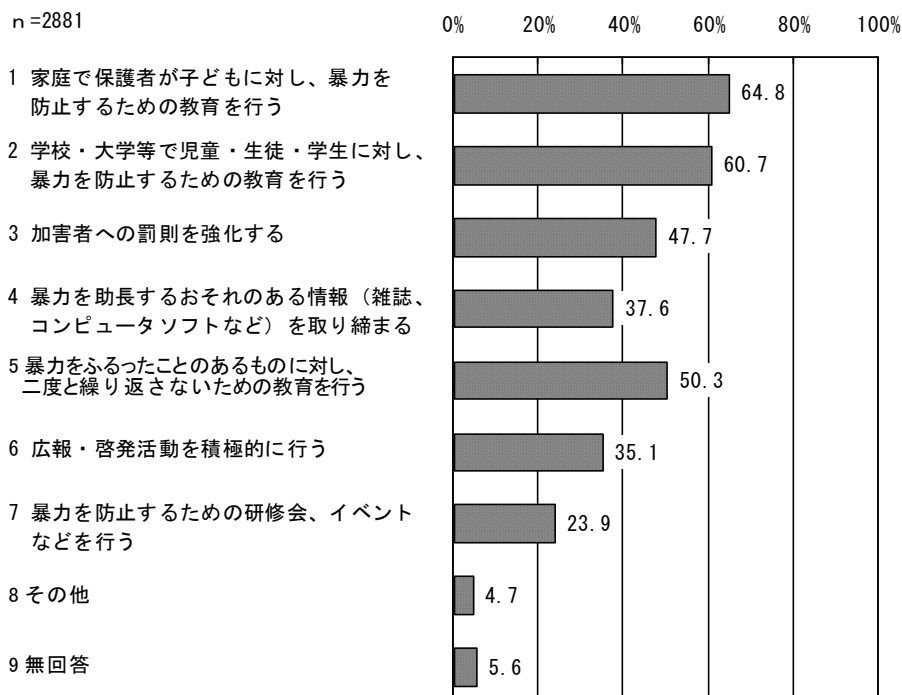
### その他の記入内容

性別	年齢	内容
女性	40～49歳	相談員と合わないと感じた時、他の相談員に変わることを。
男性	20～29歳	匿名で過去の相談者の声「アドバイス」や「事例」を掲示するとよいと思う。
男性	40～49歳	最後まで見守ってくれること。
女性	40～49歳	全ての配慮があっても足りない事もあるかと思っています。
女性	30～39歳	担当相談員が決まっており、安心して相談できること。
女性	60～65歳	被害者になってみないと気持ちが分からない。
男性	20～29歳	保護
女性	30～39歳	相談のみで終わらず改善へ進むしくみであること。
男性	30～39歳	個室などに相談室があること。
女性	20～29歳	無料
女性	30～39歳	DVとは違うが、「子供を育てている過程でイラッとして叩いてしまうことがある」と〇〇〇保育園の若い先生に相談した方がいるが、その先生がその話を彼氏に話したようで、そこから話が広がっていったことがある。相談する人のプロ意識や守秘義務、特に田舎は気をつけてほしい。

## 暴力防止に向けて必要なこと（MA）

- 配偶者や交際相手から、または親から暴力を受けた子どもへの暴力の防止に向けて必要なことを伺ったところ、「家庭で保護者が子どもに対し、暴力を防止するための教育を行う」が最も多く64.8%、「学校・大学等で児童・生徒・学生に対し、暴力を防止するための教育を行う」が60.7%などとなっています。

問6. 配偶者や交際相手から、または親から子への暴力を防止するためにはどのようなことが必要だと思いますか。



●その他の記入内容は以下の通りです。

その他の記入内容

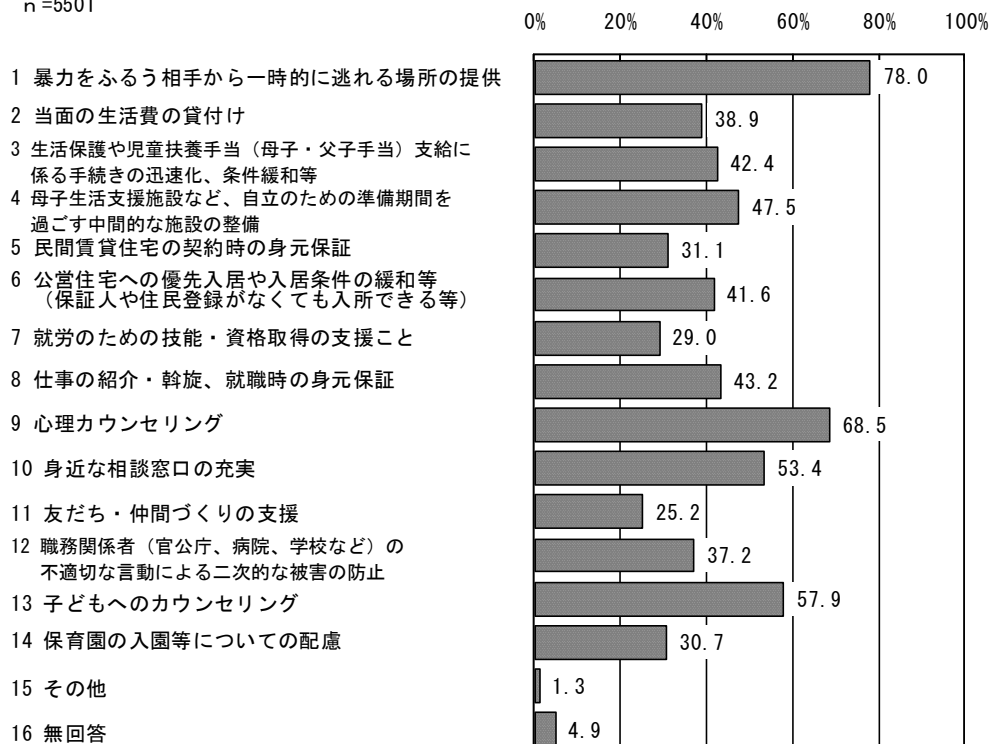
性別	年齢	内容
女性	30～39歳	小さな悩み事でも相談窓口がうやむやにしなければ防止できるのではないのでしょうか？
女性	20～29歳	1・2だけじゃなくて、大人の教育も今は必要な時代だと思います。今の時代が異常だと思います。少しのコトでもすぐDVとかにになってしまうコトもおかしいと思うから。
女性	40～49歳	道徳教育
男性	20～29歳	水谷修さんなどをまねいて講習会を行う。
男性	40～49歳	どこでもきちんと相談にのる態勢を整える。
男性	60～65歳	個人を尊重する指導
女性	40～49歳	上記1-7は根本的な解決策ではないと思う。その前の段階でもっと手を打つべき事があると思う。具体的に書けずすみません。
女性	30～39歳	医師の相談
女性	50～59歳	母親学級など産前産後のころに研修会があるとよい。
男性	20～29歳	誰かが気づいてあげる。→相談にのる。
女性	30～39歳	配偶者、交際相手、親から子へとは限らず、誰にでもあり得ることだと思うので、人間としての心のゆとり（ケア）などが必要。DVされた人は必ず大切な人を傷つけるので、DVされた側のケアが重要！！
女性	16～19歳	保育園からの教育をしっかりと行う。
男性	40～49歳	猥と暴力を混同しない定義をつくる。
女性	40～49歳	きつい罰則！
男性	60～65歳	程度にもよるが、こんな子供は施設に入れ徹底教育させなければいけない。（なってしまったら）
男性	40～49歳	地域でのつながりを強化する。
男性	20～29歳	保護者の離婚など家庭環境が原因に含まれることの意識付けが必要と思われる。親から愛情を受けていないなど・・・。
女性	40～49歳	暴力に対して何かを行うというのは不本意な気がする。親なり身近な者が優しい環境の中にいてそれを見て感じて育つ子供達は思いやりのある人間に育つと思う。どうするかより今現在、大人達がどう生きるかが問題だと思う。
女性	20～29歳	話して解決するなら事件は起きない。
男性	50～59歳	社会的モラルの向上
男性	40～49歳	よくわからない。
女性	60～65歳	低学年からの道徳教育を授業に取り入れる。
男性	50～59歳	親が、本当の意味で大人になる教育が必要。
女性	30～39歳	心が豊かで安心して暮らせる社会づくり
男性	40～49歳	景気が良くなり皆の生活が豊かになること。
女性	60～65歳	孫がいじめられるよりいじめる方が美德の様な話し方をする祖母がいる。私には信じられない言葉で、親どころか祖母の教育まで必要なのかと思った。
女性	40～49歳	心理カウンセリング
男性	50～59歳	とにかくいきさつを聞いてダメやったら引き離す。
女性	40～49歳	自分の身を守るすべの教育
女性	20～29歳	地域の関わり合いを増やす。（交流の場を設ける）
男性	50～59歳	子供については、学校・病院等で気をつけて早期発見に努め、適切な対応をとる。
女性	30～39歳	相談できる場所があるという告知
女性	40～49歳	話し合い

## 必要な行政支援（MA）

- 配偶者や交際相手から、または親から暴力を受けた子どもなどの被害者に必要な行政支援について伺ったところ、「暴力をふるう相手から一時的に逃れる場所の提供」が最も多く 78.0%、次いで「心理カウンセリング」が 68.5%などとなっています。

問 7. 配偶者や交際相手から、または親から暴力を受けた子どもなどの被害者を支援するために、どのような行政サポートが必要だと思いますか。

n = 5501



- その他の記入内容は以下の通りです。

### その他の記入内容

性別	年齢	内容
男性	40～49歳	心の相談センター、命の電話の増設
男性	60～65歳	関係機関が主対応する。
女性	30～39歳	癒し（DVされた人・した人各々が抱えている心の傷を癒してあげなければ、基本的解決にはいたらないと思う）
男性	60～65歳	問4に記載されている相談窓口を8を除いて一本化するのが良い。
男性	50～59歳	色々話を聞いて、そのつど対応。
女性	30～39歳	一世帯だけでなく地域ぐるみでコミュニケーションが高まるしくみ。
男性	50～59歳	特に子供の心の傷を最小限にすること。里親を見つける。
女性	40～49歳	被害者にならない為、加害者にならない為の教育等。

この報告書（概要版）は、「家庭等における暴力防止に関するアンケート調査」の主要な項目についてまとめたものです。

詳細をお知りになりたい方は、調査報告書の閲覧ができますので、下記までお問い合わせください。

お問い合わせ先：下呂市役所 経営管理部 総合政策課

〒509-2295 下呂市森 960 番地

電話 0576 (24) 2222 (代表)



配偶者等からの暴力根絶の  
ためのシンボルマーク

家庭等における暴力防止に関するアンケート調査  
報 告 書

発行 平成23年3月

編集 下呂市 経営管理部 総合政策課

〒509-2295 岐阜県下呂市森960番地

TEL:0576-24-2222